

巻頭言

今年度、新たな気もちで、*St. Paul's Librarian* 38号を発行しました。一つには、新型コロナウイルスのパンデミックが一応の収束をみたされ、マスクの着用も自由になって、大学のキャンパスにみながもどってきた一年だったということ。そして、私個人の話になりますが、2022年度秋学期から一年間の在外研究を終え、戻ってきてふたたび、本誌の編集にあたったということがありました。在外研究での学びを報告したいと思いながら、帰国後すぐに授業がはじまり、まだその作業に至れておりません。留守中、学内外の多くの方たちにご面倒をおかけしました。研究や今後の教育活動の中で、私自身の学びを活かし、留守中のご支援に対し少しでもご恩返しをしていこうと誓っております。

巻頭は、秋学期に本学にお迎えした二人の外国からのゲストの講演録です。香港ミンファ聖公会神学院図書館長のHelen Cheung博士、スペインのジローナ大学教授のJordi Cicres博士は学生も理解できるよう、母語ではない英語でお話ししてくださいました。Cheung博士は2024年度、客員研究員として本学に滞在されます。

2023年度の図書館実習の実施は私の留守もあり、いろいろと変則的になり、受け入れ先の図書館の方たちには（実は学生にも）特別なご理解とご協力をお願いする場面がたびたびありました。改めまして、寛大な心でご協力をくださいましたことに、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。本誌には、そんな中で実習に行った学生たちの中から二人に報告を寄せてもらうことができました。また、「図書館実習事前指導Ⅰ」には、東京都立中央図書館で長年、活躍していらっしゃる本学卒業生の上田奈緒美氏にいらしていただくことができ、本誌にご講話の内容を掲載できました。東京都の都立図書館という大きな組織の中で長年、司書として独自の貢献をされている先輩のお話には、学生たちは真剣に耳を傾けました。

嬉しい、図書館への就職活動の報告も二本掲載できました。さらに、昨（2022）年度卒は実は、把握しているだけでも5名の卒業生が図書館に就職したのですが、若干、就職状況の把握が遅れたことなどから、就職活動体験記の掲載は一本にとどまりました。しかし、本誌に、昨年度の卒業生である藤江開生さんから、活動の報告を寄せてもらうことができました。「児童サービス論」担当の青柳啓子兼任講師からの推薦で、伊藤まりさんのレポートも掲載できました。

そして、少し急なことでしたが、小牧龍太特任准教授が本年度末をもって退職いたしました。新天地でのご活躍をお祈りしているところです。本学司書課程の特任ポストはしばらく空席になりますが、新たに加わってくださる兼任講師の先生方とともに、この予期していなかった展開をなんとか楽しんでいけたらと思っております。

最後になりましたが、改めまして、今号に玉稿をお寄せくださいましたみなさまに、御礼申し上げます。毎年、2月末まで原稿募集をしております。みなさまからのご寄稿をお待ちしております。

中村百合子
(立教大学司書課程主任)